

|    |   |     |   |    |   |    |   |    |   |    |   |   |
|----|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|---|
| 議長 |  | 副議長 |  | 局長 |  | 補佐 |  | 係長 |  | 係員 |  |  |
|----|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|---|

平成30年5月15日

多賀城市議会議長 殿

会派名 公明党多賀城市議団

代表者名 根本 朝栄



研修等報告書


このことについて、下記のとおり参加したので、概要を報告します。

記

1 報告者（参加者）

- |              |   |           |   |
|--------------|---|-----------|---|
| (1) 代表 根本 朝栄 |    | (5) ..... |    |
| (2) 阿部 正幸    |   | (6) ..... |   |
| (3) 齋藤 裕子    |  | (7) ..... |  |
| (4) .....    |  | (8) ..... |  |

2 参加した研修会等の概要

- 研修期間：平成30年5月10日（木）～平成30年5月11日（金）
- 研修会等名称：第10回2018年度 日本自治創造学会研究大会
- 研修主催者：財団法人 日本自治創造学会
- 研修場所：明治アカデミー  麻生棟3階（東京都千代田区神田駿河台1-1）
- 研修の概要（講師、日程、内容等）：添付主催者資料のとおり

3 研修の概要

別紙のとおり

4 所感（今後の市政に資する点）

別紙のとおり



**宮城県多賀城市議会 会派行政視察等 行程表**

〈 研修、調査研究、要請・陳情 用 〉

会派名「公明党多賀城市議団」

■ 日 程：平成30年5月10日（木）～ 5月11日（金）

| 日 程                                     | 行 程   |
|---|---|
| <p>&lt;1日目&gt;</p> <p>5月11日<br/>(木)</p> | <p>多賀城駅——仙台駅（新幹線）——東京駅——御茶ノ水駅——</p> <p>昼食——明治大学アカデミーコモン（13：00～17：40）——</p> <p style="text-align: center;">↓後樂園駅が変更</p> <p>御茶ノ水駅——水道橋駅——ホテル着</p> <hr/> <p>■ 宿泊</p> <p>・東京グリーンホテル（東京都文京区後樂園1-1-3）<br/>TEL03-38169-4161</p> <hr/> <p>■ 調査事項等</p> <p>1、地方自治創造学会研修会（2本の講演とパネルディスカッション）</p> |
| <p>&lt;2日目&gt;</p> <p>5月12日<br/>(金)</p> | <p>ホテル発——水道橋駅——御茶ノ水駅——</p> <p>明治大学アカデミーコモン（9：30～14：55）——御茶ノ水駅——</p> <p>東京駅（新幹線）——仙台駅——多賀城駅</p> <hr/> <p>■ 調査事項等</p> <p>1、地方自治創造学会研修会（5本の講演）</p>   |

第10回 2018年度 日本自治創造学会 研究大会

# 人生100年時代の地域デザイン ～人口減少社会に向き合う地域社会～

## 日時

平成30年5月10日(木) 13:00～17:40  
11日(金) 9:30～14:55

**場所** 東京 明治大学アカデミーコモン棟3階 アカデミーホール  
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1  
TEL 03-3296-4545【代】

**参加費** 会 員 **13,000円** (年会費2,000円、2日間大会参加費・資料代含む)  
※大学院生会員参加費 2,000円 (年会費、2日間大会参加費・資料代含む)

非会員 **15,000円** (2日間大会参加費・資料代含む)  
※大学院生非会員参加費 3,000円 (2日間大会参加費・資料代含む)

改革発表会兼交流会 参加費:1,500円

主催 財団法人 日本自治創造学会

## 第10回日本自治創造学会

# 研究大会 プログラム

### ■ 第1日目 5月10日(木)

|             |   |
|-------------|---|
| 12:00       | 開場・受付   |
| 13:00～13:10 | 大会挨拶 穂坂 邦夫 ((財)日本自治創造学会理事長)   |
| 13:10～14:00 | 講演 人生100年時代の人作り革命<br>高橋 進 (株)日本総合研究所理事長)  |
| 14:00～14:15 | 質疑  |
| 14:15～16:45 | パネルディスカッション<br><b>若者たちの挑戦—人口減少社会の地域デザイン</b><br>パネリスト 伊藤 文弥 (NPO法人つくばアグリチャレンジ副代表理事)<br>横山 太郎 (Co-Minkan普及実行委員会共同代表・医師)<br>李 炯植 (NPO法人Learning for All代表理事)<br>井上 貴至 (総務省〈現在、愛媛県市町振興課長〉)<br>パネリスト兼コーディネーター 山崎 亮 (株)studio-L代表取締役) |
| 16:45～17:00 | 休憩  |
| 17:00～17:40 | 講演 人生100年時代の政府の取組み<br>菅 義偉 (内閣官房長官・衆議院議員)   |
| 17:50～20:00 | 改革発表会兼交流会 ~改革大発信・ベスト1の選出・親睦・交流~   |

## ■ 第2日目 5月11日(金)

9:30～10:20

講演 **これからの日本をどうする**

佐々木 信夫 (中央大学名誉教授・(社)日本国づくり研究所理事長)

10:20～11:00

講演 **ごちゃまぜ共生社会で創る日本の未来**

雄谷 良成 (社会福祉法人佛子園理事長)

11:00～11:10

休憩

11:10～11:50

講演 **空き家対策と活用策**

伊藤 明子 (国土交通省住宅局長)

11:50～12:00

質疑

12:00～13:00

昼 食

[12:40～(財)日本自治創造学会総会]

13:00～13:50

講演 **人口減と対峙する地方議会**

北川 正恭 (早稲田大学マニフェスト研究所顧問・元三重県知事)

13:50～14:00

質疑

14:00～14:50

講演 **日本の目指す道**

新藤 義孝 (元総務大臣・衆議院議員)

14:50～14:55

閉会挨拶 中邨 章 ((財)日本自治創造学会会長・明治大学名誉教授)

## 1 研修の概要

- 5月10日の第一日目は午後1時から開催され、財団法人日本自治創造学会理事長の穂坂邦夫氏から開会の挨拶があった。

その後、「人生100年時代の人作り革命」と題して、株式会社日本総合研究所理事長の高橋進氏より講演があり、講演終了後に質疑も行われた。

続いて、「若者たちの挑戦—人口減少社会の地域ビジョン」と題して、パネルディスカッションが開催された。パネリストは、NPO法人つくばアグリチャレンジ副代表理事の伊藤文弥氏、Co-Minkan 普及実行委員会共同代表・医師の横山太郎氏、NPO法人 learning for All 代表理事の李ヒョンシギ氏、愛媛県市町振興課長の井上貴至氏で、コーディネーターは、株式会社 studio—L 代表の山崎亮氏のもと行われた。パネリストは若者の代表で、社会貢献しながら事業を展開している大変素晴らしい方々であった。

本日の最後は、「人生100年時代の政府の取り組み」と題して、内閣官房長官の菅義偉氏による講演があり、現政権の経済対策の取り組みと成果等について報告された。

- 5月11日の二日目の午前は9時30分より開催された。国会開会中の影響で講演の順番の変更があったものの、予定通りの登壇者で講演が行われた。

始めに、「これからの日本をどうする」と題して、中央大学名誉教授・(株)日本国づくり研究所理事長の佐々木信夫氏による講演があり、明治維新期に行われた「廃藩置県」が人口急拡大時代に備えた政治革命だったのに対し、これからの未曾有の人口減少・豊かさ迫及時代に突入していく中で問われる政治革命は、「廃県置州」との氏独自の持論を展開する大変興味深い講演であった。

続いて、「空き家対策と活用策」と題して、国土交通省住宅局長の伊藤明子氏より講演があり、現在の空き家の状況と国の取り組みについて講演があった。

質疑・休憩のあとに、「日本の目指す道」と題して、元総務大臣・衆議院議員の新藤義孝氏より講演があった。新藤氏は、議員個人ではなく議会総体としての在り方について「議会基本条例」が重要との講演があった。

午後1時から、「人口減と対峙する地方議会」と題して、早稲田大学マニフェスト研究所顧問・元三重県知事の北川正恭氏による講演があり、最後に、「ごちゃまぜ共生社会で創る日本の未来」と題して、社会福祉法人佛子園理事長の雄谷良成氏による講演があった。

## 2 所感

今回の日本自治創造学会の研究大会は、「人生100年時代の地域デザイン～人口減少社会に向き合う地域社会～」とのテーマのもと、政治家や官僚及び著名な学者による「7本の講演」と5人の若者のパネリストによる「パネルディスカッション」という内容の濃い研修大会となった。

高橋氏は現在の経済状況について、デフレではないがデフレ脱却までは至ってないとしながらも脱却の方向に向いているとの認識を示した上で、人口減少・高齢化社会をどう活力ある社会へと築いていくかが課題とし、人生100年時代に向けた

「社会保障改革」、「人づくり革命・少子化対策、教育改革」が重要との認識を示した。その中で特に、一億総活躍と言われるとおり、労働参加率（女性の参加率、高齢者の参加率）の引き上げと労働生産性を高める働き方改革、そして、能力があるのに家庭の事情で大学に行けない若者への支援として、教育の無償化と教育改革が大事と話されたことは、大変重要な課題と認識するものである。

若者によるパネルディスカッションは、障害者の方を雇用して農場を営む青年や医師をしながら社会貢献している青年、NPO法人の代表理事で貧困の家庭の子供に無償で勉強を教えている青年、国家公務員で出向した県の市町村振興課長として活躍している青年などがパネリストで、現在の活躍している模様などを興味深く聞くことができた。このような多くの若者が地域社会の中でのびのびと活躍していけるような環境づくりは大変重要であり、人口減少抑制という観点からも行政の大事な仕事と認識した。

菅官房長官の講演は、現政権の経済対策の実績及び政治状況など、非常に分かりやすい講演であったが、PRとの感も否めなかった。

佐々木氏の「廃県置州」との言葉は聞きなれないが大変興味深く聞き入った次第である。氏は、国と地方を合わせて現在1200兆円の借金があることを踏まえ、「入れるものが小さくなっているのに入れ物がそのまま大きいというのはおかしい。」と話され、借金が減ることは今後はあり得ず、道州制を導入することにより30兆円の予算が削減されるとの持論を展開した。

道州制は、①地方分権を進め地域主権の国をつくる。②借金大国を克服する財政再建。③省庁再編と府県再編による行政効率化。④人口減少化時代に相応した新しい統治を生み出す大改革と論じた。

新藤氏は、「議員は選挙で選ばれるから存在感があるが、議員の総体である議会は見えにくいのが現状であり、有権者の認識が薄いため議会不要論などはなくならない。それを克服するには、議会基本条例をしっかりと作り議会報告会を開催して、議会を身近に感じてもらうことが大事である。」と話されたことを踏まえ、再度、議会基本条例の制定の是非について議論が必要と認識した。

今回の研修会は、人口減少に向き合った地域社会づくりについて、様々な角度から講演をいただき大変参考になった。先日、河北新報の記事で掲載された2045年の人口減少率が多賀城市では26.2%と報道され、大幅に人口が減少する見通しとなっており、それに加え、東北学院大学の撤退で若者の交流も少なくなることから、人口減少対策及び交流人口の増加へ向けた対策は待ったなしの状況である。

パネリストが地域社会の中で活躍しているように、多賀城市においても若者たちがのびのびと地域社会の中で活躍し、地域に貢献していけるような環境づくりが非常に重要であり行政の取り組みに期待したい。

本市においては、平成27年度に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を作成し、若者に焦点あてた定住策や子育て支援、歴史を活かしたまちづくりなどを積極的に行うこととなっているが、なお一層、総合戦略を着実に推進できるよう政策提言も含め会派として取り組んでまいりたい。

|        |   |             |   |        |   |        |  |        |   |        |   |
|--------|---|-------------|---|--------|---|--------|--|--------|---|--------|---|
| 議<br>長 |  | 副<br>議<br>長 |  | 局<br>長 |  | 補<br>佐 |  | 係<br>長 |  | 係<br>員 |  |
|--------|---|-------------|---|--------|---|--------|--|--------|---|--------|---|

平成30年8月15日

多賀城市議会議長 殿

会派等名 公明党多賀城市議団

代表者名 根本 朝栄












### 調査研究報告書

このことについて、下記のとおり実施したので、概要を報告します。

記

#### 1 報告者(参加者)

- (1) 代表 根本 朝栄  (5) 
- (2) 阿部 正幸   (6) 
- (3) 齋藤 裕子  (7) 
- (4)  (8) 

#### 2 調査研究の概要

- 調査期間：平成30年8月8日(水)～平成30年8月10日(金)
- 調査目的：先進都市に赴き、市政に関する以下の具体的事項を調査するもの
- 調査手法：視察調査
- 行程又は日程：添付行程表のとおり
- 調査先及び調査事項

| 調査日時                   | 調査先     | 調査事項及び現地視察の有無                         |
|------------------------|---------|---------------------------------------|
| 8月8日(水)<br>14:00～15:30 | 山口県山口市  | 山口市の定住政策について                          |
| 8月9日(木)<br>13:30～15:30 | 山口県下関市  | 次世代育成支援拠点施設〔ふくふくこども館〕<br>について(現地視察あり) |
| 8月10日(金)<br>9:30～11:30 | 福岡県北九州市 | 門司港レトロ倶楽部について                         |

- 調査資料：添付調査先作成資料のとおり

#### 3 調査の概要

別紙のとおり

#### 4 所感(今後の市政に資する点)

別紙のとおり





多賀城市議会会派視察調査行程表

1 日程及び視察先について

- ・ 平成30年8月8日(水)から同月10日(金)まで 2泊3日
- ・ 山口県山口市、山口県下関市、福岡県北九州市門司区

2 調査項目について

- ・ 山口県山口市 「山口市の定住政策について」
- ・ 山口県下関市 「次世代育成支援拠点施設〔ふくふくこども館〕について」
- ・ 福岡県北九州市門司区 「門司港レトロ倶楽部について」

3 視察参加者名

- ・ 公明党多賀城市議団：<sup>ねもとあさえ</sup>根本朝栄(会派代表者)、<sup>あべまさゆき</sup>阿部正幸、<sup>さいとうゆうこ</sup>齋藤裕子

4 行程表

| 行 程  | 月 日   |
|--|---|
| 8:00 (NH3735) 9:35 (シャトルバス) 11:31 (こだま735)<br>仙台空港 ----- 広島空港 ----- 広島駅 -----<br>12:16 12:25 (JR山口線) 12:48 (タクシー移動)<br>新山口駅 ----- JR山口駅 --- (昼食:ホテル隣「シェフ」) ---<br>14:00 15:30 16:00<br>--- 山口市役所 --- ホテル(サンルート国際ホテル山口) | 8/8 (水)<br>視察先:山口市役所(山口市亀山町2-1)<br>担当:議会事務局 オオバ様<br>TEL:083-934-2854                |
| 9:42 (JR) 10:04 10:22 (こだま) 10:49 (タクシー)<br>ホテル --- 山口駅 ----- 新山口駅 ----- 新下関 -----<br>--- (市内見学) --- (昼食) --- ふくふくこども館 --- 下関駅 ---<br>13:30 15:30 15:50 16:00<br>16:30 17:00<br>--- 門司駅 --- ホテル                        | 8/9 (木)<br>視察先:ふくふくこども館(下関市竹崎町4-3-3 JR下関駅ビル3階)<br>担当:施設職員様<br>TEL:083-227-2581      |
| 9:30 11:30<br>ホテル --- 門司港レトロ倶楽部 --- (昼食) --- (市内見学) ---<br>14:25 (JR) 14:35 14:54 (のぞみ25号) 15:10 (地下鉄10分) 16:55 (NH1277)<br>門司駅 ----- 小倉駅 ----- 博多駅 ----- 福岡空港 -----<br>18:40<br>--- 仙台空港                              | 8/10 (金)<br>視察先:門司港レトロ倶楽部(北九州市門司区東港町1-12 大連友好記念館3階)<br>担当:ホリウチ様<br>TEL:093-332-0106 |

※初日は多賀城市役所を7:00に出発、最終日は多賀城市役所に19:20到着の予定(市役所・仙台空港間は自家用車で移動)

### 3 概要

#### (1) 山口市の調査について

##### ① 山口市の移住・定住対策

###### ・定住促進の取り組み

大都市圏で開催されるフェア等でのプロモーションやSNSでの発信

移住定住専用ウェブサイトを平成28年5月開設

移住定住専用フェイスブックを平成29年3月開設

移住フェア等への出展（平成29年度実績、東京8回、大阪3回、福岡2回）

その他（平成30年7月、毎週火曜日からFMラジオ番組にラジオトーク）

移住体験、仕事体験ツアーの企画・開催や移住者の就業支援

住環境や就労環境等を体験するツアー

山口市で小売店舗を創業するために移住を検討するオーダーメイドツアー

（交通費補助：居住地から山口県内への往復交通費の2分の1補助【3万円以内】）

（活動費補助：山口市内で起業に関する活動費補助【1泊一人1万円、3泊まで】）

移住者向け就労支援

UJIターンお試し就業補助金

UJIターン就業・創業活動補助金

UJIターン長期滞在サポート事業補助金

UJIターン若者創業時賃貸住宅補助金

空き家バンクの運営や空き家活用コンペティションの開催

空き家バンク制度

空き家の利用希望者へ山口市が空き家の情報提供

空き家の所有者（貸したい方、売りたい方）は、山口市へ空き家登録

山口市定住サポーター制度

山口市が定住サポーターを委嘱

移住定住を検討している方へ、空き家の地域案内、住民との顔つなぎ等を行う

空き家バンク改修事業補助金

空き家バンク家財道具等処分事業補助金

#### (2) 現地調査

##### ① 山口県立美術館

「激動の幕末 長州藩主毛利敬親 明治150年特別展」

山口市担当者から、山口県立山口博物館、山口県立図書館、山口県文書館、山口県埋蔵財センター、山口県立美術館の5館と山口商工会議所、山口観光コンベンション協会、山口市商店街連合会等が連携して、歴史から美術、考古、古写真、読書まで多彩なイベントを開催する同特別展のご案内をいただく。

交流人口増加の発信となるように取り組みしたイベントのひとつ。

#### (3) 下関市の調査について【現地調査】

① 次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」の取り組みについて

「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとした市民の交流と子育て支援の拠点施設

【ふくふくこども館の役割】

- ・子育て家庭支援・・・地域の子育てに関わる人々をサポート
- ・地域活力増進・・・市民に結びつけた下関を元気に
- ・遊び体験学習・・・さまざまな遊びと学びを提供
- ・郷土文化伝承・・・下関らしさを楽しく伝える

開館時間 10時から18時

休館日 毎週水曜日、年末年始

入館料 無料

・プレイランド

(下関をイメージした就学前の子どもたちと保護者ための楽しい遊び広場。子どもたちの好奇心やチャレンジ心をくすぐるここならではの遊びがたくさんあります)

・交流スペースクリエイティブランド

(下関市の床地図を囲んで、子どもから大人までの気軽に集えるスペース。壁には下関市ゆかりの詩人の優しい詩が並びます)

・多目的室

(様々なプログラムを実施するほか、貸し室としても利用していただく)

・こども一時預かり室

(専任保育士がお子様をお預かりします)

・相談室

(子どもや子育てに関する相談を随時受付ています。有資格者による特別相談も実施します)

建物は下関駅周辺整備事業として建設

暮らし・にぎわい再生事業(社会資本整備総合補助金)

主な用途・・・商業施設、次世代育成支援施設ふくふくこども館

事業費

|                 | 事業費    | 民間    | 国費    | 市費    |
|-----------------|--------|-------|-------|-------|
| 暮らしにぎわい再生事業(民間) | 約43億円  | 約24億円 | 約5億円  | 約14億円 |
| 都市再生整備事業(行政)    | 約85億円  | —     | 約40億円 | 約45億円 |
| 総事業費            | 約128億円 | 約24億円 | 約45億円 | 約59億円 |

#### (4) 福岡県北九州市の調査【現地調査】

##### ① 歴史と海峡を活かしたまちづくり（門司港レトロ）について

###### ・門司港レトロ事業

本州と九州をつなぐ玄関口に位置する「門司港レトロ」

歴史的建造物関門海峡の美しく雄大な自然環境を活かして歴史と自然が融合した都市型観光拠点として整備される官民一体となり活性化を目指す。

門司港レトロ第1期事業（1988年～1994年 公共投資300億円）

多くのハードインフラ整備が行われ衰退したまちが、観光地へ様変わりしていく

門司港レトロ第2期事業（1997年～2007年 270億円のうち公共127億円）

長く滞在してもらうためにホテルやレストラン、ロマンチックな演出やスポットづくり

門司港レトロ第3期事業（2008年～2018年）

「観光」と「まちづくり」が一体となった地域振興

点と点だった観光スポットが繋がって線となり面となって、まちに広がっていく

###### ・今後の課題（ハード面）

建物：旧JR九州本社ビルの活用

関門橋周辺の魅力向上

中心市街地活性化事業とコンパクトシティ構想による再開発

魅力ある景観づくり

文化芸術の香るまちづくりの推進

###### ・門司港レトロ倶楽部

平成7年3月にハードは行政、ソフトは民間として生まれた。

地元ボランティア団体、観光事業者、行政の官民3者が連携、協力しながら観光まちづくりを推進

現在37団体

組織・・・イベント委員会、地域連携委員会、地域活性化委員会、事務局

年間イベント数・・・平成28年度は625件

観光だけでなく住みやすいまちづくりの取り組み

特徴・・・行政と民間が協力して活動し、継続的に成果を出している

参加団体は自主的に活動。他団体の活動には原則干渉しない

新しいやり方への挑戦、意識が途切れない活動を継続

課題・・・関門の広域連携（下関と門司）

世代交代

収益事業の発展

#### 4 所感

##### (1) 山口市について

- ① 大都市圏で開催されるフェア等でのプロモーションやSNSでの発信、移住者向け就労支援補助金の充実、山口市定住サポーター制度、空き家バンク改修事業補助金、空き家バンク家財道具等処分事業補助金など、移住定住対策として積極的に取り組みと、おもてなしの対応が素晴らしい。本市でも人口減少減少社会に向けた取り組みとして、今後検討が必要になる時期が来るので、大変参考になりました。

##### (2) 山口県立美術館【現地調査】について

「激動の幕末 長州藩主毛利敬親 明治150年特別展」については、山口市担当者からの紹介で、交流人口増加の発信となるように取り組みしたイベントのひとつで、地域の歴史を活かした取り組みは参考になりました。

##### (3) 下関市について【現地調査】について






- ① 次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」の取り組みは、「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとした市民の交流と子育て支援の拠点施設の役割どおり、子育て家庭支援、地域活力増進、遊び体験学習、郷土文化伝承が揃い、素晴らしい施設となっています。

子育て支援が充実している本市においても、参考になる取り組みも多くあり、さらに子育て支援の充実につながるよう推進していきます。

##### (4) 福岡県北九州市の調査【現地調査】について

- ① 歴史と海峡を活かしたまちづくり（門司港レトロ）は、地元ボランティア団体、観光事業者、行政の官民3者が連携、協力しながら観光まちづくりを推進する理想的な取り組みとなっています。門司港レトロ第1期事業、門司港レトロ第2期事業、門司港レトロ第3期事業と継続的な取り組みで、門司港レトロ倶楽部の皆様が、観光まちづくりに対する情熱と挑戦が伝わってきました。

本市における観光まちづくりの取り組みの参考となり、数年後、課題を克服し、どのような観光まちづくりの取り組みを行っているのか、また現地調査をしてみたいと感じました。

|    |   |     |   |    |   |    |  |    |   |    |   |
|----|---|-----|---|----|---|----|--|----|---|----|---|
| 議長 |  | 副議長 |  | 局長 |  | 補佐 |  | 係長 |  | 係員 |  |
|----|---|-----|---|----|---|----|--|----|---|----|---|

平成 30年 12月 18 日

多賀城市議会議長 殿

会派等名 公明党多賀城市議団

代表者名 根本朝榮









### 研修等報告書

このことについて、下記のとおり参加したので、概要を報告します。

記

#### 1 報告者（参加者）

- |           |   |           |   |
|-----------|---|-----------|---|
| (1) 阿部正幸  |    | (4) _____ |    |
| (2) 齋藤裕子  |   | (5) _____ |   |
| (3) _____ |  | (6) _____ |  |

#### 2 参加した研修会等の概要

研修期間：平成 30 年 11 月 29 日（木）

研修会等名称：東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた  
シンポジウム

研修主催者：東京都、東京都議会

研修場所：東京都中央区日本橋2-7-1東京日本橋タワー地下2階  
ベルサール東京日本橋

研修概要（講師、日程、内容等）：添付主催者資料のとおり

#### 3 研修の概要

別紙のとおり

#### 4 所感（今後の市政に資する点）

別紙のとおり



### 3 研修の概要

平成30年11月29日（木）14:00開会17:30終了

1. 東京知事、並びに都議会、大会組織委員会副事務総長の挨拶

2. 東京2020大会に向けた文化事業の事例紹介

① 参画プログラム・祭りプログラムの紹介・フェスティバルの説明

② ねりま光が丘地域力活性化プロジェクト事例紹介

③ 文化活動への助成金制度事例紹介

：文化事業の紹介では、ホストタウンの紹介、都市鉱山（使用済み携帯電話、小型家電、～作成）から作るみんなのメダルプロジェクト、文化の祭典としての取り組みとして、聖火リレーと共に大会への参加機会を全国で創出するなどの紹介がありました。

3. 文化芸術パフォーマンス（フットボールエンターテイメント集団「球舞」の演技）

4. 東京2020マスコットキャラクターの紹介

5. 各都道府県のラジオ体操動画の紹介

6. パネルディスカッション：テーマ「地域の文化力をいかした『文化の祭典』」

コーディネーター：葛西聖司（古典芸能解説者、国立劇場評議員長）

パネリスト：松田丈志（オリンピックメダリスト）、生駒芳子（ファッションジャーナリスト）谷口亮（大会公式マスコットデザイナー）

：東京2020大会を日本中みんなで盛り上げていこう、ものづくりや、その、職人にスポットを当ていこう、戦争で忘れていたもの、震災で失くしたものを再確認していこう、スポーツを通して、健康づくりを推進することは高齢者における生き甲斐の創出となる、などの意見が交わされた。

7. パラリンピックの競技の紹介・体験

車いすバスケットボール、ウィルチェアラグビー、

：実際に体験させて頂きました。目線が変わりました。

※東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた文化の取り組みとして、東京2020大会を契機に芸術文化がより身近になり、より多くの人々が芸術文化に日常的に触れ、楽しむなど文化の魅力であふれる都市東京を実現のための文化プログラムを展開し、参加する機会を積極的に取り組んでいる。

東京だけのオリンピックではなく、全国でこの気運を盛り上げる取り組みが必要なこととし、日本国内に所属する芸術団体を対象に事業を推進している。

イメージキャラクターの名前の由来や、込められたメッセージなど、子どもたちと共有する取り組みとして、全国学校でのオリンピックキャラクターの選挙を開催した成果を紹介。小学校へ、オリンピック・パラリンピックのポスター募集の紹介

市民ボランティアがイベントの立ち上げから、主体を担う取り組みが紹介され、ボランティア活動への参加にも繋げていく、呼び掛けがありました。

ソフト・ハード両面のレガシーの創出として、1964年東京オリンピックでは、新幹線、高速道路ハード面のレガシーと、ピクトグラム誕生や、冷凍食品の技術開発の発展など、ソフト面のレガシーが生まれ、成熟境の礎になった。2020大会では、熟成社会の新たな進化を遂げるため、誰もが優しく感じることの出来るバリアフリーのまちづくりや、スポーツを通じた健康づくり、世界をリードする環境先進都市の実現、芸術文化の発信など、価値あるソフト・ハード両面のレガシーを残すこと。

また、東日本大震災被災地復興支援・熊本地震被災地復興支援につなげていくこととして、大会を通じて、次代を担う若者たちに夢と希望を送る事が、将来にとって大きな意義がある。震災を風化させない、被災地の方々が力強く復興へ向けて歩む姿を世界に発信するとともに国内外の人々に感謝を伝えるものとして掲げていました。

#### 4 所感（今後の市政に資する点）

今回この研修に参加をして、改めてオリンピックの意義や、それに伴う成果について学ぶ事が出来ました。大きく日本が飛躍する時なのだと、世界観が変わりました。

では、どのようにわが市に、影響があるのかということだと思います。

東京オリンピック会場として、宮城県利府町の宮城スタジアムがサッカー会場になっています。多くの方々が、来場されることが、予想されます。

交流人口の増加、日本国内外からの来航者に、わが市の魅力を発信することが大事と考えます。日本遺産を大いに活用し、地域の宝を今一度再認識し、郷土芸能や、歴史を改めて、学ぶ機会にもなると感じました。オリンピックを機会に、文化の発信は、おおいにするべきとおもいました。多賀城に来て多賀城を知って頂くことも、大切だと思いました。

教育面としては、オリンピックの選手とのふれあいや、オリンピック・パラリンピックの競技を体験する事や、交流会の開催など、積極的に取り入れていくべきだと感じました。オリンピックを通して、様々な情報や、人との出会いは、多様性との調和を図れることから、教育に大いに期待できると思うからです。

例えば、地域や、学校などで、パラリンピック競技のボッチャなどの、ユニバーサルスポーツを通して、障害のバリアを取り除く、ユニバーサルマナーの気づきにつなげていくことなど取り組むのも良いと思いました。

いま世界や、日本の現状は、気候変動や、天然資源の枯渇、環境問題、人権問題、持続可能性に関する課題に直面しています。国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に貢献と継承に取り組むべきと言われています。本市においても、その一つ一つの課題に向けて、



この時期に併せて、更に研究していくことも必要ではないかと思ひます。

オリンピックの意義に「参加することに意義がある」といわれています。オリンピックの理想は、人間をつくる事であり、人と付き合うことが世界平和の意味を含むとありました。東京オリンピック・パラリンピックは、オール日本の取り組みだと実感してまいりました。多賀城市の小中学校の、オリンピック関連事業に大いに繁栄させ、子どもたちに、夢や、目標、希望を持ってもらえる取り組みをしていくことが大切だと思ひました。

以上